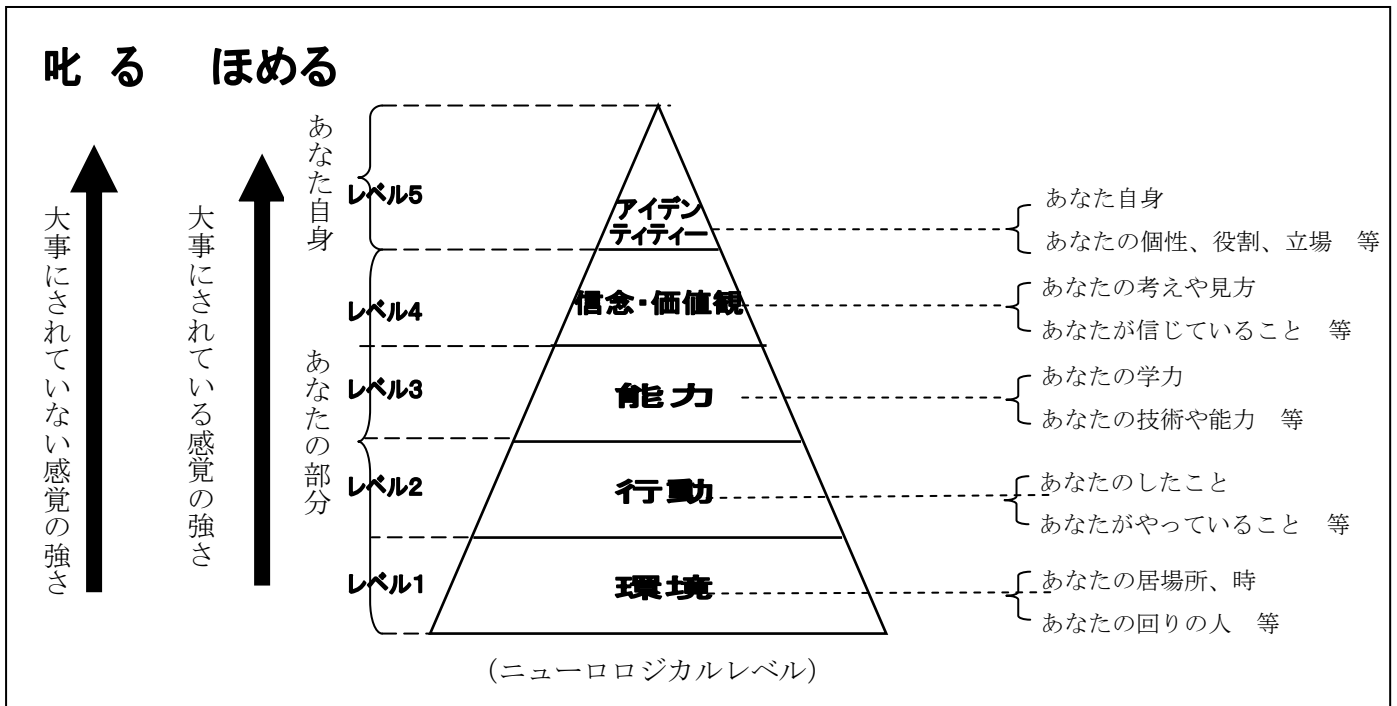


子どもが嬉しくなる言葉（叱り言葉・ほめ言葉）

私たちは、子どもを叱ったり、誉めたりして育てています。しかし、その言葉に十分配慮しないと子どもが「先生は、私の事を嫌っているのかもしれない。」と誤解することになりかねません。ここで、利用できるのが、ニューロロジカルレベルです。（言葉が脳に与える影響の強さを階層的に考えたもの）

NO. 2で紹介した例（言い方の違い）を応用することができます。もちろん、この前提には、お互いの信頼関係が大きく関わっています。



この図に示すようにレベルが高くなるほど、子どもが自分自身のことと感ずるように脳が働いてしまいます。ですから、レベルの高いほめ方をすると自分自身を大事にされていると感じたり、レベルの高い叱り方をすると自分を全否定されたように感じたりします。

実践の中から見つけた実際に使われているほめ方やしかり方の例を紹介します。

<ほめ方>

- あなたって本当に素敵だね。（レベル5）
- ○○さんの考えは素晴らしいね。皆さん、参考にしましょう。（レベル4）
- あなたには、～をする力がついています。自信をもっていいですよ。（レベル3）
- あなたがしたことは、みんなの見本になります。素晴らしいですね。（レベル2）

<叱り方>

- そんなあなたではいけません。頑張りなさい。（レベル5）※強い信頼関係が前提となります。
- 何を考えているのかわからない。しっかりしなさい。（レベル4）
- ～する力がないので、無理です。（レベル3）
- そんなことしてたらだめでしょ。（レベル2）

<両方（ほめると叱る）を組み合わせせて>

- みんなの見本となるあなただから、こんなことをしてはだめだよ。（レベル5とレベル2）
- せっかく～な考え方をしているのだから、これをすればよいのになぜしないの。（レベル4とレベル2）
- ～したいと思っているのならば、これくらいのことができないでどうするの。（レベル4とレベル3）

いろいろありますが、実は、日頃の自分の癖でほめたり叱ったりしていることが多いようです。自分の癖を知ることによって新しいほめ方や叱り方ができるようになります。



— あすなろ会 問い合わせ先 —
E-mail suda1016@mail.goo.ne.jp